

「誠之館学びの変革プロジェクト」を通して、「広く学び、深く考え、人を愛し、夢に立ち向かえる生徒」を育てる。



教務研修部 実践推進リーダー
青木 晃子先生

教務研修部
カリキュラム開発チーム
1年担当
佐々木 章江先生

進路指導部 部長
田中 謙次先生

教務研修部 中核教員
高田 和美先生

教務研修部
カリキュラム開発チーム
2年担当
森 敦子先生

安政二年(1855年)に創設された藩校「誠之館」を起源とし、創立163年目を迎える歴史と伝統を誇る福山誠之館高等学校。広島県の「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」の「『学びの変革』パイロットスクール」として、生徒の考える力や自主性を生かした教育方法で、新しい教育プログラムに挑戦しています。夢ナビライブ講義動画サービスは、3年間の探究的カリキュラムの中でのテーマ決定や、大学の研究内容の理解のプロセスで有効に活用されています。

『学びの型』で

身につけた力を生かし、
生徒が他者と協働して
課題解決の方法を見出す

高田…本校は、平成27年度に広島県教育委員会から「学びの変革」アクションプランの「探究コアスクール」の指定を受けました。そこで、生徒に「仮説を立て、実証的に結論を導き出したり、課題解決を目指して原因を究明し解決策を提案したりする力を身に付けさせること」を目指して、「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」を核とした、教科とリンクさせた探究的カリキュラムの開発に取り組んできました。この「誠之館学びの変革プロジェクト」で育てたい生徒像は、「広く学び、深く考え、人を愛し、夢に立ち向かえる生徒」です。生徒の「自ら学ぶ姿勢」を育てるために、様々な取組を実践しています。

1年次では「学びの型」を身に付ける」をテーマとし、誠之館生としての学習スタイルを身につけます。3年間をかけて取り組む探究的な学びに向けてのベース作りを目的として、まず4月の誠之館スクールで「誠之館学びのスタートアップ」を行います。どのように学習を進めていけばよいか、生徒に各教科から具体的なアドバイスをを行います。今後の学びのベースと



なる、基本的な学びのスタイルを身に付けるための初期指導の位置づけです。生徒に主体的・自律的に学習に取り組み態度を身に付けさせるため、各学年のどの時期にどのような学び方を身に付けていけばよいのかを3年間のストーリーで表した「誠之館学びのスタイル」で、学びに向かう道筋を示します。少しずつ手を離して自分で勉強していくことができる、それが生涯学ぶ力になっていくことを目指して、学校全体で組織的・統一的に指導しています。

そして、3年間の探究的カリキュラムを始動させます。そのスタートの位置づけとなるのが「学びの扉プロジェクト」です。

佐々木…「学びの扉プロジェクト」は入学したばかりで、他の人の顔も名前もわからない段階で行います。様々な角度から「学ぶ意味」について考え、一人ひとりの高校生活の過ごし方を考えていきます。ただ漠然と学習を進めるのではなく、社会でどのような力が求められ、その力を誠之館高校での学習や生活を通して、どのように身に付けていくかを生徒は理解していきます。また、なぜ誠之館に入ってきたのか、これからどうしていくのかを、時間をかけてゆつくりと考えさせていきます。

なぜ誠之館に入ったのか、高校で何を学ぶのか、産業社会とは何かといったテーマで新しい仲間と討論を行います

が、これはお互いの考えを知り、その中で他者を受け入れる態度や他人と合意形成をいかに行なうかというスキルを身に付けていくためのものです。

1年間のまとめとして、「福山市プロデュース」という地域を魅力的な街にすることをテーマとした課題を与え、ボスター制作という形で学習の定着を図ります。今年からは新たに学校の周辺でのフィールドワークにも取り組みました。生徒たちはまだテーマを見出すことに慣れていませんので、それに対しては、赤いものを見つけるとか、猫や虫の視点で見ると何が見えるかといった大きなテーマのヒントを与えました。また「特別なものを探すのではなくて特別なものにするのはあなた達なのだ」「何もない中から自分たちで価値を作ることにチャレンジしよう」ということをこの取り組みを通して粘り強く指導しました。ボスター制作の中でも、それぞれのグループで見せ方やデザイン、キャッチコピーなどの工夫をしており、生徒の成長を実感することができました。



森…2年次のテーマは「問い」です。「問い」というのは、学校が育てたい生徒像にもあるように、「広く学んで、深く考える」ということです。1年次では集団での討議や発表のやり方といった「型」を通して実力を養っていきます。それを活用深

3年間の探究的なカリキュラムの集大成「誠之ゼミ」

青木…3年次の「誠之ゼミ」では自分でテーマを設定して、研究や発表を自らの責任で進めていきます。最終的にはそれを論文にまとめて発表するのですが、こういった思考やプレゼンテーションの方法については、生徒は体系的な指導を受けたことはありませんでした。そこで、プレゼンテーションの方法や討議の意義についてまとめた「アカデミック・スキルズ」という冊子も作りしました。

生徒は「問い」に対して思考を通じて新しい「問い」を作り、さらに答えを探すという繰り返しの中で、身に付けた知識・技能を活用し、自ら課題を発見し、課題を解決する力を身に付けていきます。1・2年次の土台がありますから、研究は熱が入ったものになりました。発表された論文のなかにも優れたものが多くありました。



高田…広島県の賞をいただいたのは、命の大切さを訴えた絵本の研究をした生徒です。その生徒は、ベットの亡くなったときに昔読んだ絵本を思い出したということを発端に、命の大切さを伝え記憶に残る絵本は、どういう構成の工夫や、表現の工夫があるかを研究しました。その生徒は教育（保育）を志望していたこともあり、そのような観点に至ったのだと思います。

多くの生徒がこういった思いに行きつくことができるように、それぞれのゼミの担当教員がテーマの掘り下げのサポートもしていきます。

森…少人数のゼミナール形式の中では、他のメンバーの研究内容について考える経験も重要な役割を果たしています。少人数のグループの中で、ある生徒と教員のやりとりを他の生徒も聞き、その後の意見交換や対話の中から他の生徒にとつての本質に近づくヒントを得たり、別の視点からものを見ることができるようになっていくのです。

青木…私が面白かったのは、さまざまな分野のキャッチコピーを集めてきて、売れるもののコピーには共通点があるかというところを分析したものです。この生徒は経営学部進学希望なので、大学進学と研究内容が合致した例ですね。誠之ゼミで研究をしたことをもとに、例えばAO入試で岡山大学教育学部に進んだ生徒もいます。他にも、理科系の口頭試

化させていくために取り組むのが、「誠之チャレンジ」です。これは東京同窓会の全面的な協力の下、会員の勤務する企業、官庁及び研究機関等における研修を中心とした修学研修旅行を実施しています。職場施設見学に加えて、自分たちで考えた課題や研修先から提示していただいた課題に対して、調査・研究・考察をグループで行い、導き出した答えを研修先で発表します。プレゼンテーションも生徒同士ではなく企業に対して行い、より厳しい目で見られることになります。そんな体験をするなかで世の中には、自分の知らないことが数多くあることを身にしみて理解するようになるのです。

「第一志望宣言」や「ブレ誠之ナビ」で生かされる夢ナビライブ講義動画サービス

森…社会に対するイメージができた段階で、2年次では「第一志望宣言」を行い、自分の進路を見据えて志望理由書を作成します。そこで生徒たちは、自分が大学について知らないということに気付き、大学教授は何をテーマにどんな研究をしているのだろうかという疑問を持つのです。生徒たちに「研究って何？」という問いを投げかけると、環境問題や平和といった「大きな話」について考えることだと答えが返ってきます。しかし、「夢ナビライブ講義動画サービス」のタイ

問のときにゼミで勉強したことが役に立ったという生徒もいました。

高田…教員が総合学習に取り組む時に迷うのは、3年生にそんなにたくさんゼミの論文を課して大丈夫なのかということ。しかし、神戸大学の研究では、課題研究論文の優秀さと学力の間には、相関性があるということでした。あるテーマに向かって研究していくプロセスは、必ず学力を上げるものだということ。共通認識を教員が持つことも大事ではないかと思っています。

田中…進路指導の立場からは、総合学習と進路のつながりに対して2つの見方をしています。3年間で考えることや社会に対する関心を深めていくのですが、そのなかで進路意識が高まるということです。例えば1年次では漠然と薬学部に行きたいと考えている生徒がいたとします。しかし、総合学習を経る中でもっと社会問題を解決する分野に進みたいと、大学や学部選びに対してより深い考察ができるようになります。



もうひとつは、学びへの意欲が高まることです。確かに3年生は誠之ゼミに時間を取られて大変ですが、自分が関心のあることであれば苦ではありません。誠之ゼミを通じて好きなことを見つけて、その好きなものに対して努力ができるということはとても大切なこ

ろを見ると、そのような大きなテーマだけでなく、小さなテーマ、マニアックな研究もあることに気がきます。しかも視聴すると、それが専門的で面白い。そのことを通じて、自分の個性を生かせるような小さなテーマでも研究対象になることに気付いてほしいのです。



青木…2年次の後半からは、それぞれの生徒が自分は何を研究したいかのテーマを設定していくという3年次の「誠之ゼミ」に向けた準備期間に入っていくことになります。しかし、大学の学びや研究内容に対して具体的な知識がないと、自分がどういう研究をしたいのかイメージできません。その解決策として取り組む「ブレ誠之ゼミ」の中で、「夢ナビライブ講義動画サービス」は研究テーマを決めるのに重要な役割を果たしています。今年度は冬休みに少なくとも2本の動画を見てレポートを提出することを課題としました。自宅で何度でも自由に視聴できるので、その後も関心を広げたり、進路を見極めたりするために、繰り返し視聴している生徒もいるようでした。

森…「夢ナビライブ講義動画サービス」の視聴だけで、自分の研究テーマが決まるという生徒ばかりではありません。1・2年次では、自主的に考えようというも、他の人と役割を分担して協働し、グループとして成果が上がることに力を注

とです。そんな経験があれば、勉強に対しても前向きな姿勢で取り組んでいくことができるのです。



▲「福山市プロデュース」をテーマにポスターを制作



**広島県立
福山誠之館高等学校**

育てたい生徒像は、「広く学び、深く考え、人を愛し、夢に立ち向かえる生徒」。

〒720-0082
広島県福山市木之庄町 6-11-1
TEL 084-922-0085
<http://www.fukuyamaseishikan-hiroshima-c.ed.jp>